

平成 28 年度 国立中央青少年交流の家

「ほっぴ すてっぴ キャンプ」

平成 29 年 1 月 7 日（土）～1 月 9 日（月） 2 泊 3 日

○目的

子供たちが、日常の中では体験しがたい活動にチャレンジするとともに、集団宿泊生活を通じて、規則正しい生活習慣の大切さや相互に協力し合うことの意義などを学ぶ「子供たちが将来に向けて踏み出す一歩」を応援するキャンプを実施する。

○参加者

近隣の児童養護施設の幼児，児童・生徒 計 28 名

○事業の内容

（1）「アイスブレイク」・「目標作り」

中央交流の家職員

キャンプを始めるにあたって、参加者全体の緊張感をほぐすとともに、これから始まるさまざまなチャレンジへの気持ちを高めた。また、キャンプの目標を明確にするため、全員が目標カードに記入し、名札の裏面に掲示し、目につくようにした。



（2）「フードハンティングラリー・野外炊事」

中央交流の家職員・児童養護施設職員

グループごとに助け合い課題をクリアすることを目的に、野外に隠された食材カード探しに挑戦した。グループは上級生が下級生をサポートしながら進むことを期待し異年齢構成とした。ラリー後には、冷たい富士山の伏流水にも負けず、グループで協力しておいしいバーベキューを作ることが出来た。高校生がリーダーシップを発揮し、輝いている姿を見ることが出来た。



（3）「雪山体験（スキー・スノーボード）」

イエティインストラクター

雪山体験では、スキーもしくはスノーボードにチャレンジした。小・中学生のほとんどの子供たちはスキーが初めての体験であったが、何度も転びながらも、あきらめずに最後まで講習を受けた。高校生の子供たちは、笑顔でスノーボード活動を満喫した。幼児はそり遊びを見守る児童施設職員や交流の家スタッフと共に楽しんだ。



(4)「高校生企画」

I部 ミニ運動会・サッカー大会

児童養護施設長の、高校生に企画・運営をやらせたいという強い思いにより、キャンプ2日目は午前中が「スポーツ」、午後からは「ステージ発表会・レク大会」を行った。ミニ運動会もサッカー大会も男女混合・職員児童生徒混合で、2チームに分かれ、真剣勝負が繰り広げられていた。高校生が前面に出て指示している姿が印象的であった。



II部 「ステージ発表・レク大会」

第II部はクリスマス会で実施できなかった「ステージ発表」を行った。児童養護施設職員も加わり、ダンス・寸劇・歌等各グループでの事前練習の成果が出ていた。その後は、交流の家職員も加わり、課題解決の要素を含んだアクティビティを高校生スタッフと共に行った。午後から合流した幼児は、ダンボールで作った幼児用遊具で楽しそうに遊んでいた。



(5)「早寝・早起き・朝ごはんを通しての生活習慣の見直し」

中央交流の家職員

キャンプ中は、朝6時起床、7時朝のつどいへ参加、7時30分朝食、夜21時就寝の生活をし、早寝・早起き・朝ごはんの実践を通して生活習慣を見直すきっかけとした。



(6)「キャンプのまとめ」

中央交流の家職員

個人でキャンプを振り返り、ワークシートを記入した後、「今後の生活の目標」を考え輪になってみんなの前で発表した。

《参加者の感想》

- 今回のキャンプで実施した早寝・早起きを園（児童養護施設）に戻ってからも継続し、生活リズムを整えたいと思いました。
- 今回のキャンプで、施設の団結力を感じた。また、人のことを考えて行動する力をつけることができた。
- 仲間と協力し相手のことも含め考えると、楽しく生活できるということを学んだ。

《成果と課題》

- キャンプで学んだことや体験したことを通して、全員が今後の生活に活かす目標を設定することができた。
- 「生きる力を付けさせたい」「高校生が企画運営の大変さを分かってほしい」という児童養護施設からの要望に、キャンプを通して応えることができた。
- 高校生が企画運営するプログラムでは、内容が二転三転し直前まで実施内容が決まらなかった。児童養護施設職員との連携はしっかり取れたが、高校生とは当日初めて打合せをする状態であったので、事前に交流の家スタッフからもっと働きかけをする必要があった。